

ベトナムの医薬品産業における生産と消費動向

目次

1. はじめに.....	2
2. ベトナム医薬品業界の概観	2
2.1. 生産と消費	2
2.1.1. 生産	2
2.1.2. 消費	3
2.2. ベトナム医薬品市場の規模	3
2.3. ベトナム医薬品業界の構造	4
3. 医薬品の輸出入	5
3.1. 医薬品原料・製品の輸入	5
3.2. 医薬品・薬草の輸出	8
4. ベトナムにおける医薬品の流通チャネル	9
5. 医薬品業界に関連する政府の政策	9
5.1. 国民健康保険の拡大	10
5.2. 医薬品アクセス拡大のための政策	10
5.3. 国内医薬品製造支援の政策	11
6. まとめ	11

1. はじめに

ベトナムは、人口増加、経済成長、国民の健康意識の向上を背景に、医薬品市場の潜在力が大いに注目されている国の一つである。国内市場は、ジェネリック医薬品の普及や国民健康保険の拡大といった政策に支えられ、急速に拡大している。さらに、EU-GMP や PIC/S-GMP などの国際基準を導入する企業が増加していることから、ベトナム製薬業界の競争力も向上しており、外国投資家にとって魅力的な市場となっている。本報告書では、ベトナム医薬品市場の現状そして政府の政策を探る。

2. ベトナム医薬品業界の概観

2.1. 生産と消費

ベトナムの医薬品業界は輸入に依存しているながらも、国内市場は人口増加や健康意識の高まりを背景に急成長している。今後は、さらなる国際基準の品質管理と生産能力強化が課題となっている。

2.1.1. 生産

ベトナムの製薬業界における技術レベルは、主に輸入された原料を使用した製品製造に依存しているのが現状である。医薬品の原料や新薬の開発能力はまだ低く、化学原料の約 80～90%（有効成分や

添加剤を含む）が中国やインドから輸入されている。一方で、一部の企業では無機化学原料や植物抽出物（テルピン、DEP、タウリン、ベルベリン、クルクミンなど）の生産が可能である。

国内生産の医薬品市場におけるシェアは増加傾向にあり、2003 年には 39.7%だったが、2020～2022 年には輸入品と同等の水準に達した。この成長は、国内の製薬業界が徐々に自立した供給能力を高めていることを示している。

さらに、ベトナムでは国際的な製薬基準の採用が進んでおり、WHO-GMP、EU-GMP、PICs-GMP（※）などの基準が普及している。2022 年 10 月時点では、GMP-WHO 基準を満たす工場が国内に 228 か所存在し、国際基準に適合した製品製造の体制が整備されつつある。

※WHO-GMP: 世界標準。低・中所得国の製薬業界でも受け入れられやすい。

※EU-GMP: 欧州連合内および輸出向けの厳格な基準。

※PICs-GMP: 国際調和を目指し、加盟国の相互認証を推進。

2.1.2. 消費

ベトナムにおける治療薬の販売は、主に病院向けチャネル（ETC）を通じて行われており、これが主要な流通ルートとなっている。一方で、薬局向けチャネル（OTC）は厳しい規制下にあり、多くの場合、処方箋が必要とされるため、自由な購入が制限されている。

健康補助食品に対する需要はパンデミック以降急増しており、2022 年 10 月時点で 18 歳以上の約 80%が何らかの健康補助食品を使用している。特に、健康増強や免疫力向上を目的とした製品の需要が著しく増加していることが特徴的である。

また、抗生物質とワクチンの利用に関しては、薬事法によりワクチンは薬局での販売が禁止されているが、一部の抗生物質は販売可能である。2020 年のホーチミン市熱帯病病院による調査では、88%の人々が処方箋なしで薬を使用している実態が明らかになっており、抗生物質の乱用による耐性菌の問題が深刻な懸念事項として挙げられている。

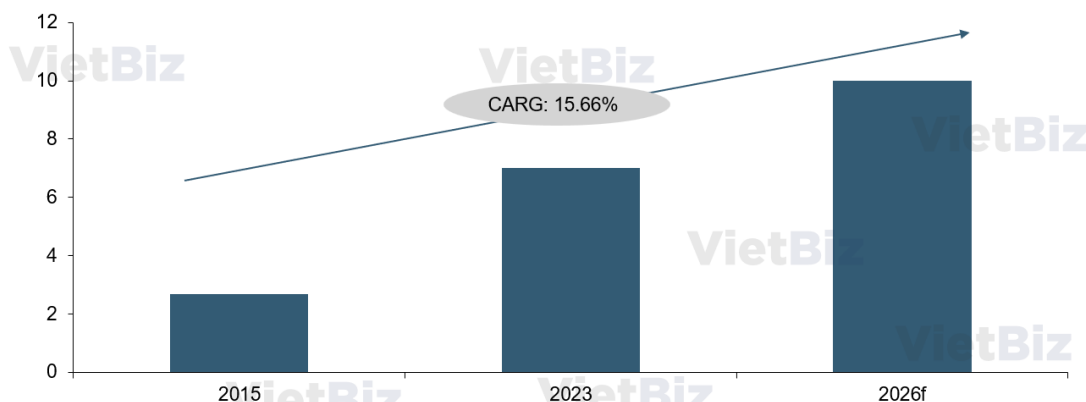
2.2. ベトナム医薬品市場の規模

ベトナムは、保健省薬事管理局の統計によれば、世界的に医薬品の市場価値の成長率が高い国の 1 つに位置付けられている。市場規模は拡大を続けており、2015 年には約 27 億ドルだった市場価値が 2023 年には 70 億ドルを超え、2026 年には 100 億ドル以上に達すると予測されている。

図表

ベトナムにおける製薬業界の規模 (2015年-2023年)

(単位: Bil USD)



出所: Viet Nam Ministry of Healthを基に、ONE-VALUE株式会社が作成

For more information, contact@onevalue.jp

ベトナムではジェネリック医薬品（※）の自主生産が可能で、輸出も行なう国とされる。国内で生産される医薬品は、数量で約 70%、販売高で約 46%を占めている。また、IQVIA Institute の報告によれば、ベトナムは 17 カ国が含まれる Pharmerging Markets（新興医薬品市場）の第 3 グループ（12 カ国）に属し、ベトナムの医薬品業界の売上高は年間 10%以上の成長率を持つと評価されている。

一方で、ベトナムの製薬企業は非常に分散しており、財務基盤が小さいという課題を抱えている。2022 年のトップ 10 製薬企業の市場シェアは 1%前後にとどまり、このため研究開発や生産技術への投資が制限される。大規模なプロジェクトや特許取得、研究チームの能力向上、生産性の向上が難しく、結果としてコスト削減にも影響が出ている。

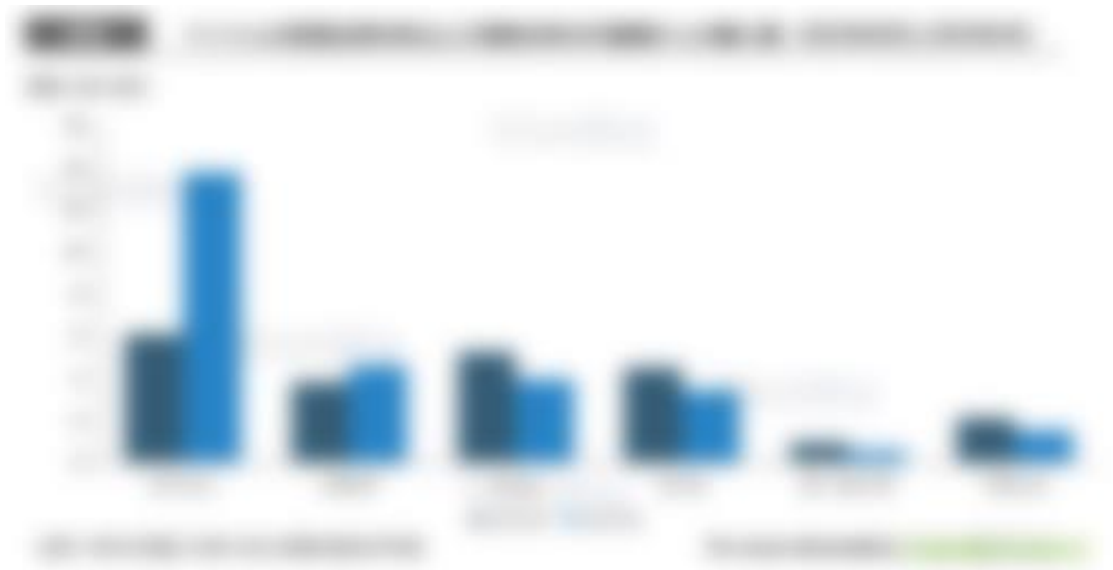
ベトナムの製薬業界は、ジェネリック医薬品の自主生産が可能で、輸出も行なう国とされる。国内で生産される医薬品は、数量で約 70%、販売高で約 46%を占めている。また、IQVIA Institute の報告によれば、ベトナムは 17 カ国が含まれる Pharmerging Markets（新興医薬品市場）の第 3 グループ（12 カ国）に属し、ベトナムの医薬品業界の売上高は年間 10%以上の成長率を持つと評価されている。

一方で、ベトナムの製薬企業は非常に分散しており、財務基盤が小さいという課題を抱えている。2022 年のトップ 10 製薬企業の市場シェアは 1%前後にとどまり、このため研究開発や生産技術への投資が制限される。大規模なプロジェクトや特許取得、研究チームの能力向上、生産性の向上が難しく、結果としてコスト削減にも影響が出ている。

- 1. 製薬業界の現状と課題
- 2. 主要な製薬企業とその市場シェア
- 3. 今後の成長戦略と投資動向







図表は、2020年10月時点のベトナムの企業数（法人）を示しています。製造業が最も多く、約85社存在します。小売業や宿泊・飲食サービス業も比較的多く、それぞれ約25社と20社程度です。情報・通信業や金融・保険業、不動産業はそれぞれ約20社、15社、10社程度です。



この図表は、2020年10月時点のベトナムの企業数（法人）を示しています。製造業が最も多く、約85社存在します。小売業や宿泊・飲食サービス業も比較的多く、それぞれ約25社と20社程度です。情報・通信業や金融・保険業、不動産業はそれぞれ約20社、15社、10社程度です。